

## 旧小千谷総合病院跡地整備事業 図書館等複合施設設計業務 公募型プロポーザル審査結果

### <最優秀提案者及び優秀提案者の選定について>

標記プロポーザルに係る審査は、「旧小千谷総合病院跡地整備事業 図書館等複合施設設計業務 公募型プロポーザル実施要領」に基づき、第一次審査及び第二次審査の2段階方式により選定を行いました。選定にあたっては、専門的かつ公正な審査を行うため、学識経験者及び行政関係者で構成する審査委員会を設置しました。

第一次審査では、公募により30者から提出された技術提案書に基づいて書類審査を行い、3者を第二次審査の対象者として選定しました。

第二次審査では、対象者3者と公開によるプレゼンテーション及びダイアログ（対話）を行い、第一次審査結果に「技術提案の内容」の加算ポイント、「コミュニケーション能力」、「本業務の取組意欲」の観点を加えて総合的に審査し、以下のとおり最優秀提案者及び優秀提案者を選定しました。

なお、評価点数及び審査講評については別紙をご覧ください。

◎最優秀提案者 株式会社 平田晃久建築設計事務所

○優秀提案者 有限会社 マル・アーキテクチャ

令和3年3月18日

### <審査委員会>

委員長 澤田 雅浩（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）  
委員 平賀 研也（前県立長野図書館館長）  
委員 畝森 泰行（株式会社畝森泰行建築設計事務所）  
委員 大塚 良夫（小千谷市副市長）  
委員 松井周之輔（小千谷市教育長）

旧小千谷総合病院跡地整備事業 図書館等複合施設設計業務  
公募型プロポーザル 評価点数及び審査講評

## 1. 評価点数

第二次審査対象者の名称	第一次審査	第二次審査	合計点
(有)マル・アーキテクチャ	228	265	493
西澤徹夫建築事務所・ タカバンスタジオ設計共同体	214	248	462
(株)平田晃久建築設計事務所	233	261	494

※第一次審査及び第二次審査ともに各 300 点満点 (60 点×5 人)

## 2. 審査講評

<総評>

今回の旧小千谷総合病院跡地整備事業 図書館等複合施設設計業務 公募型プロポーザルでは、単に建物をデザインするのではなく、ICT の進展による DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進及び新型コロナウイルス感染症など新たな感染症による社会状況の変化に対応した未来志向の「暮らしのリ・デザイン」という観点から、実空間 (建築) と情報空間 (デジタル) を融合した提案を行うことと、市民プラットフォーム (小千谷リビングラボ (仮称)) とのインタラクションの中で建物のデザインを決めていくことについて、新しい視点を明確に提示しています。それに対して、30 者にも及ぶ参加事業者が意欲と熱意をもって本プロポーザルにご提案をいただいたことに大変感謝いたします。

第二次審査では、公開によるプレゼンテーション及びダイアログ (対話) を行いました。これは本事業で掲げる<共創>の実現に向けては、多様な主体による「対話」を重視していることから、審査過程においてもそうした要素を取り入れることとしました。設計案を選ぶコンペティション方式とは異なり、設計対象に対する発想・課題解決方法等の技術提案を評価し「人 (パートナー)」を選ぶプロポーザル方式においては大変有効であったと思います。

第二次審査対象者 3 者の提案はそれぞれに魅力があり甲乙つけ難く、最優秀提案者の選定に困難を極めました。審査委員会において、議論を重ねた結果、最終的には<共創>というまちの価値を高めるチャレンジに対し、設計プロセスの柔軟性及び次世代の新しい公共施設づくりの可能性が感じられる最優秀提案者を選定しました。

それぞれの提案者に対する審査の概要は以下のとおりです。

## 最優秀提案者：株式会社 平田晃久建築設計事務所

第一次審査 (書類審査) では、「フロート」(動く書架や展示棚によって資料の流動性を高める)、「アンカー」(時間の中で棲み分けられるコミュニティのための箱)、「ルーフ」(季節ごとの棲み分けを顕在化させる骨太なプラットフォーム) を組み合わせた動的な建築の提

案について、空間的な可能性や新しさにおいて高く評価しました。実空間と情報空間の融合においても、新しい形態、新しい仕組みづくりにチャレンジしようという強い意志が、技術提案書や対話にも表れていました。ただし、「フロート」については、「多様な関心の誘発」や「ランダムな散策性」、あるいは「関心から『日常のリ・デザイン』への展開」といった目指すべきビジョンは大変魅力的ですが、レールの機構への不安など、乗り越えるべき課題も第二次審査（プレゼンテーション及びダイアログ）の中で見えてきました。こうした課題については今後十分に対話・検討を行っていく必要があると考えますが、それに応えていただけるチームであると感じました。

#### **優秀提案者（次点者）：有限会社 マル・アーキテクチャ**

第一次審査（書類審査）では、実空間と情報空間の融合において、「活動」を加えることで「実空間」と「情報空間」をつないでいく可能性があるという考え方をわかりやすく示している点において評価しました。そのうえで第二次審査（プレゼンテーション及びダイアログ（対話））では、小千谷市について細かい部分までリサーチし技術提案している点や、グラフィック・レコーディングを取り入れるなどわかりやすく伝えようとする姿勢については評価しましたが、実空間と情報空間の融合について将来性と具体性にやや欠ける内容であり、ゾーニングについても固定的な印象を受けることで、将来の変化への対応に不十分と感じ、最優秀提案者として選定するに至りませんでした。

#### **西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体**

第一次審査（書類審査）では、マトリックスにも表れているように、緻密な考察のうえで技術提案している点について評価しました。一方で、建築上のポイントとして、メイン機能が2階にあり、グランドレベルで展開されていない点は物足りなさを感じました。第二次審査（プレゼンテーション及びダイアログ（対話））においては、その敷地利用の考え方・構想について、空間に対する深い知識に基づく技術提案であることは確認できましたが、次世代の新しい公共施設（図書館）の姿をイメージさせるものとして不足を感じ、最優秀提案者として選定するに至りませんでした。

以上

最後に、30者にも及ぶ参加事業者が小千谷市に関心を持ち、時間を掛けてご提案いただいたことは、大切な財産であることを忘れずに、小千谷市のみなさんには本事業を進めていただきたいと思います。また、本プロポーザルにご参加されたすべての皆様に対し、審査委員一同、あらためて感謝申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を祈念してお礼申し上げます。

旧小千谷総合病院跡地整備事業 図書館等複合施設設計業務  
公募型プロポーザル審査委員会 委員長 澤田 雅浩